

2003 シンポジウム「高齢社会を共に生きる」

実践報告要旨

「ふれ合い、助け合い、支え合いの町を目指して」

黒木 隆之（くろき たかゆき）（社福）隆愛会理事長

人口の過疎・過密化や少子高齢化、核家族化、同居率の低下、連帯意識の脆弱の中で、人の在宅志向の願いを叶えるには、フォーマルな施策はもとより、子供から大人までを対象とした地域で支え合うボランティアの育成とネットワークの形成が欠かせない。

持続的な横の組織の連携強化を図るため『こども福祉新聞』の発行や『福祉マップ』の制作を行った。また、住民が自らも学び、支え合い・助け合い活動に立ち上がることを目指して『こども福祉シンポジウム』や『おとな福祉シンポジウム』等を開催してきた。

●施設所在地：

鹿児島県曾於郡志布志町安楽2903-1

「わい、ここで暮らしたい!!!」

—住みなれた場所で暮らせるための
家族福祉(地域福祉)の創造—

中山 辰巳（なかやま たつみ）特別養護老人ホームみちのく荘 園長

本法人は地域に先駆けてさまざまな試行錯誤を重ねながら創造的な介護のあり方を、利用者の視点に立ちながら追求してきた。その過程を通じて特に痴呆症の高齢者を介護している家族に見られるストレスが、家族への支援体制の不備に起因することが分かった。

地域を巻き込んだ福祉演劇の創作・上演を始めとした諸事業を実施する中で、ボランティアを主体とした「介護者のためのほのぼのサロン」の開設により、ケアする人へのケアの実践に取り組み始めた。

●施設所在地：

青森県むつ市十二林11番13号

「誰しものが共に暮らすことのできるまちづくりを目指して」

—住民主体で歩む地域福祉活動を展開するために—

中野 孝士（なかの たかし）（社福）釧路市社会福祉協議会事務局長

釧路市では、総合的な地域福祉の展開を図るために、介護保険制度の定着と住民主体によるインフォーマルサービスの創設・結合を目指した。

介護保険制度のキーパーソンである介護支援専門員の自己研鑽・資質向上や、ネットワークの確立として介護保険事業者の調整と広域的な組織化・連携を図った。また、市民が参加できる福祉活動の場の開拓や、住民主体の小地域福祉活動の展開を図るために社協・民協・町内会の連携による「見守り・ニーズ発見」のモデル事業を提起し、取り組んできた。

●施設所在地：

北海道釧路市旭町12番3号

「しあわせ実感の村づくり、人づくり」

- 地域トータルケアの実現を目指して -

市川 千香（いちかわ ちか）（社福）福葉山村社会福祉協議会事務局長

人口4,500人の小さな村の挑戦は、高齢化率32%を誇れる地域づくりを目指したものである。これまでの一人暮らし高齢者の見守り活動や暮らしの応援サービスの実践を元に、高齢者自身の生きる力をもっと引き出せる取り組みがないかと考えた。

そして、住民による高齢者全員を対象とした実態・ニーズ調査や、高齢者自身が発信するイベント、地域主体のふれあいいいききサロン等を実施してきた。高齢者・住民は参加から実践主体に変化しつつある。

●施設所在地：

高知県高岡郡葉山村姫野々431-1
葉山村総合保健福祉センター「里楽」内